

JFA 第46回全日本U-12サッカー選手権大会 参加報告

報告者：兵庫 FA 谷 淳平

はじめに

私が審判を始めるときに決めた最初の目標、「全少に行く」を今回達成することができました。推薦していただきました関西サッカー協会・兵庫県サッカー協会みなさまに感謝申し上げます。以下、参加報告をさせていただきます。

1, 概要

i) 大会

名称：JFA 第46回全日本U-12サッカー選手権大会（小学生の全国大会）

期間：2022年12月25日～29日

会場：ふれあいスポーツセンター、鴨池補助競技場、白波スタジアム（鹿児島県）

※審判員は全国派遣のユース（U-18）審判員32名。

全ての試合を8人制、1人制審判（主審と補助審）で行いました。

ii) 参加者（関西のみ抜粋）

[審判員]

[インストラクター]

小林 顕太氏（兵庫）

若林 秀一氏（京都）

瀬田 順矢氏（兵庫）

中川 航氏（大阪）

谷 淳平（兵庫）



関西からの参加者5名

2, 振り返り

i) 事前準備

[トレーニング]

大会2週間前（学校の期末考査終了後）から重点的に体力トレーニングを行いました。

しかし、冬で気温が低いこともあり「オーバートレーニングでのけがが怖い」という気持ちと「大会に向けてトレーニングを追い込みたい」という気持ちの葛藤がありました。

その結果いつも通りのトレーニングしかできず、体力に少し不安を抱えたまま鹿児島に行きました。いつも通りのトレーニングが弱いと大会前に追い込めなくなるので、日ごろからしっかり追い込んだトレーニングをしなければならぬと痛感しました。

また今後は、大会前などのけがができない期間のトレーニング内容についても考えていきたいと思っています。

[競技規則]

競技規則 2022/23 + 8人制競技規則 で行われました。

事前準備として、11人制と違う部分（キックオフから直接得点できないなど）の確認はもちろん、「8人制競技規則で複雑な部分」も現場でスムーズに対応ができるよう、大会前に確認しました。

8人制競技規則で複雑な部分

a) 止血の確認

11人制の場合、出血した競技者が交代するときに止血の確認は不要（出血した競技者が再びフィールドに入ることがないため）ですが、8人制は再交代が可能かつ自由な交代（主審に通知することなくインプレーでも交代が可能）であるため、主審は出血した競技者が交代する場合、補助審に出血した競技者の番号を伝える必要があります、補助審は出血した競技者が再交代する（競技のフィールドに入る）際に止血の確認を行うとともに、主審の許可を得なければならないことに注意する必要がありました。

b) DOGSO+ADV → 交代

主審がDOGSO（決定的な得点の機会を阻止した）と判断したがアドバンテージをかけた場合、主審は「次のアウトオブプレー」で反則を犯した競技者を警告しなければならないですが、8人制の場合「次のアウトオブプレー」まで競技者が交代することがある。その場合の主審の対応について。

ii) 試合を通して

[割当]

1次ラウンド 主審2試合・補助審3試合
ラウンド16 主審1試合
準々決勝 補助審1試合

ラウンド16を担当することで、1次ラウンドの試合では見えなかった課題を見つけることができました。

一方、瀬田氏（兵庫）は準決勝の主審を担当していました。

割当が発表される時、一般的に「なぜその人が選ばれたのか」は知ることができず、選ばれなかったときには様々な感情を持ちます。今回も決勝/準決勝担当に選ばれなかったことを知った夜、様々な感情を持ちました。

しかし同時に少し納得感もありました。それはおそらく、事前準備のトレーニングが足りていないことを実感しながら鹿児島行きの新幹線に乗っていたからだと思います。

ですが、次に同じ思いは絶対にしたくないので、これから次の全国大会までの期間粘り強く努力して、何1つ不安を残さず次の全国大会に向かいたいと思います。

[ユニフォーム決定]

今大会は MCM (マッチ コーディネーション ミーティング) が無いため、ユニフォームは試合前に運営本部が決定し、チームは運営から連絡がきたユニフォームを着用することになっていました。

しかしラウンド 16 の試合前、片方のチームスタッフから「FP の緑と相手 GK の黄緑が識別しにくい」と該当試合の審判員 (私) に要請がありました。

その要請を聞いた私は、自分 1 人でなんとかしようとしたのですが、インストラクターから「運営本部に任せればいい」とアドバイスがあり、自分が動いたところで意味がないことに気がつきました。

普段の試合でユニフォームの識別が困難な場合は、主審のみで変更の決定をすることが可能ですが、今大会は運営の許可がない審判員独断での変更は許されないとのことだったので、今後は注意したいと思いました。(結果、運営本部の了承を得て GK ユニフォームの色を変更し、試合を開始しました。)

[YouTube ライブ配信]

研修中にユース審判員の中で特に話題になったのは「試合映像が SNS 上に公開されること」についてです。

今大会は 1 次ラウンドから試合映像 (の一部) が YouTube (JFA TV) に公開されており、コメント機能が ON になっていたため、判定に対する意見がコメント欄に書かれている動画もありました。

自分のレフェリング向上のために YouTube 映像を利用するのはとても便利ですが、コメント欄を見ってしまうことで、同時に自分に不要な情報も取り入れることとなります。コメント欄にレフェリング向上に参考になることは書かれていないため、コメント欄は見ない方が良くもしいかなことを学びました。

SNS を身近に使っている高校生としてはどうしても「コメント欄での意見」には敏感になりますが、大会が終わり冷静に振り返ると、大会期間中は SNS に敏感になりすぎていたのではないかと思います。

SNS との関わり方について今一度考えてみようと思います。

3, 最後に

今大会の一番の思い出は、全国に同い年の審判仲間がたくさんできたことです。今回この研修に参加させていただいて、全国に同じような悩みを抱える仲間がいて、その仲間と一緒にこれから同じような壁を乗り越えていくのだということに気がつきました。

また、大会を振り返って強く思うのは「もう一度全国大会の舞台に帰ってきたい」ということです。

この大会に審判員として参加できるのは 1 度だけのため、次の全国大会までかなりの時間があります。ですがこの長い期間手を抜くことなく粘り強く努力して、もう 1 度全国大会に参加し、次こそは何の不安もなく地元を旅立てるようにしたいと思います。

最後になりましたが、改めて私にこのような研修に参加させていただき、ありがとうございました。私を支えてくださったすべての方に御礼申し上げます。

<< あとがき >>

この報告書は「8 人制サッカー」や「1 人制審判」に特化している内容が多く、11 人制を担当される方々には少し役立ちにくいレポートとなってしまったかもしれませんが、この報告書が少しでも皆様のお役に立つことを願っております。